

令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

地域子育て支援拠点事業及び利用者支援事業（基本型）における利用者の個別ニーズの把握・相談対応状況に関する調査研究

<実施主体名>

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

地域子育て支援拠点事業は、子育ての不安や負担感を軽減し、ひいては子育て親子の交流や相談支援を通じて孤立した子育てを払しょくすることが期待される地域子ども・子育て支援事業の一つとして、その役割の重要性が高まっている。

本研究では、地域の身近な場所で、子育て親子の交流や相談、情報提供等を行う地域子育て支援拠点事業における相談支援と、地域の身近な場所で相談に応じ、個別のニーズを把握し、親が地域の資源やサービスを円滑・適切に利用できるように支援する取組である利用者支援事業（基本型）の相談支援について、その実施状況を明らかにし、それぞれの機能と役割の相違点や連携、相乗効果等について検証した。特に個別ニーズの把握と対応について、相談支援の実態及び個別ニーズの把握・対応のプロセスの分析を通して、地域子育て支援拠点事業および利用者支援事業（基本型）における相談支援の質的向上を図ることを目的として実施した。

全国の自治体職員、利用者支援専門員、地域子育て支援拠点職員向けのアンケート調査、及び利用者支援事業（基本型）と拠点事業の両事業を実施している全国の10カ所の拠点職員、利用者支援専門員、利用者インタビュー調査を行った結果、地域子育て支援拠点職員による相談支援は、日常的な子育てに関する相談としての身近な相談相手として期待されており、利用者支援専門員が配置されている場合には、つながりをするか否かを選別する「トリアージ」としての役割、「利用者支援事業のパイプ役」の役割を有していた。利用者支援専門員は、身近な相談相手であるとともに、「深い悩みを引き出す相談相手」や「詳細な情報の提供者」の役割とともに「社会資源への仲介者」としての役割を有していた。さらに、利用者支援専門員が地域子育て支援拠点に配置されることで、親は気軽に子どもを遊ばせながらワンストップで相談支援を利用しやすく、支援者は利用者の状況をモニタリング（経過観察）できることから、支援の効果の確認や新たな利用者のニーズの発見につながるなど効果的な支援が行えることが明らかになった。

また、今回の調査によって、地域子育て支援拠点事業において利用者支援事業（基本型）が実施されることで、相談のしやすさが増し、ワンストップで効果的な相乗効果が明らかになった。同時に、利用者にとっては、地域子育て支援拠点という場の中で、拠点職員による日常的な相談の場と利用者支援専門員による相談の場を往還することで、従来、地域子育て支援拠点が持つ機能や、地域子育て支援拠点における「寄り添い型」（『地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究』）が強化されることが示唆されたことから、自治体及び実践者に本研究の成果を提供し、さらに実践を深めることを期待したい。

一方では、課題として挙げられた利用者支援事業（基本型）・利用者支援専門員の認知度の低さ、専門員の研修の必要性、拠点や他事業との連携強化やそのための環境整備、相談件数が増してきた事業所では専門員の複数配置、増員等について検証し、推進体制の支援が求められる。